

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi



ごあいさつ

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 神山清志

会員、賛助会員の皆様におかれましては益々のご清祥のことお喜び申し上げます。また、日頃より当会の運営・活動にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、当会の役員改選に伴い、6月9日に開催された令和4年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会定時会員総会にて22名の理事が承認され、引続き行われました理事会にて、私が、引続き3期目の会長に選定されました。謹んでご報告申し上げます。

昨今、コロナ禍に振り回された反面、臨床検査の必要性がクローズアップされてきましたが、臨床検査技師はまだまだ知名度が低くマイナーな資格であります。引続き、諸活動を精力的にこなし、行政等が実施するイベントにも積極的に参加して知名度のアップに努めてまいります。

また、当会にとっては記念すべき50回目の医学検査学会を私、神山が学会長を務め開催いたします。会員の皆様に思い出に残る学会を開催いたします。

日臨技に関しましては、今年度からは新しく日臨技品質保証施設認証制度が開始されます。生理機能分野を除くすべての検査部門が対象となります。当会でも積極的に支援を行い、多くの施設に認証を取得していただければと思っております。

多くの会員に選んでいただいた理事と共に、会員の皆様に誠心誠意、微力を尽くしたく存じますので、引き続きご指導、ご協力賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和4年度 定時会員総会が開催される

令和4年度定時会員総会が令和4年6月9日(木)大宮ソニックシティ401/402号室にて開催された。本総会の審議内容は令和3年度事業報告、収支決算報告、監査報告、第51回埼玉県医学検査学会学会長選出および令和4・5年度理事の選任についてであった。総会は長澤英一郎事務局次長の進行で神山清志会長の挨拶で始まり、続いて原繁一氏、津田聡一郎氏の各名誉会員の紹介があった。

総会に先立ち各賞表彰式が行われ、令和3年度埼臨技功労賞が第49回埼玉県医学検査学会学会長の飯田眞佐栄氏に授与された。永年会員表彰は65名の会員が該当し、総会では3名が表彰された。

「埼臨技会誌」優秀論文賞は吉野淳樹氏(埼玉県立循環器・呼吸器病センター)に授与された。

総会は議案審議に先立って河村憲一氏（JCHO埼玉メディカルセンター）が議長に選出され、河村議長により総会役員が指名された。資格審査委員は神嶋敏子理事、東部地区から久保田亮氏（埼玉県立大学）、南部地区から急式政志氏（埼玉県立小児医療センター）、西部地区から神戸考裕氏（関東甲信ブロック血液センター埼玉製造所）、北部地区から阿部健一郎氏（深谷赤十字病院）が任命され、資格審査委員長には委員の互選により神嶋理事が選出された。また書記は千葉明日香氏（越谷市立病院）

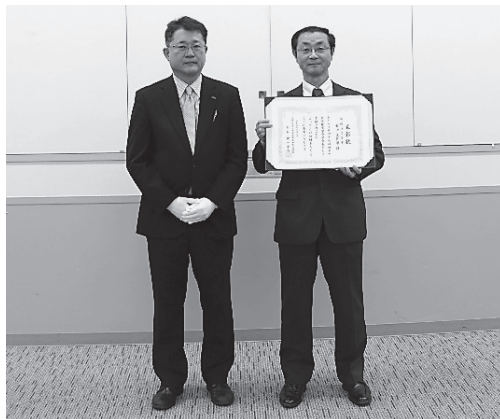


議長 河村憲一氏

と鈴木由美子氏（浦和医師会メディカルセンター）が、議事録署名人には田中亜紀氏（熊谷総合病院）と久保居由紀子氏（JCHO埼玉メディカルセンター）がそれぞれ任命された。その後、河村議長は「18時30分現在の出席者数88名、委任状出席者数1,976名、議決権行使書数319名で、合計2,383名であり、本通常総会を構成する会員数は5月1日現在3,394名で、現在の出席数、議決権行使書、委任状の総数は総会審議のために必要な票数である1/2を超えており、『定款』第18条の規定により本総会は成立している」と宣言された（最終の出席者数は90名、委任状出席者数は1,976名、議決権行使書数は319名、合計2,385名）。

議事審議は、最初に神嶋資格審査委員長より、議事日程が提案された。それに沿い河村議長の進行により審議が始まり、第一号議案の令和3年度事業報告について神山会長から、第二号議案の収支決算について松岡優副会長から、監査については遠藤敏彦監事より報告があった。質疑などはなく満場一致で可決された。第三号議案の第51回埼玉県医学検査学会学会長選出は、神山会長より矢作強志氏（川口市立医療センター）を推薦する旨の提案があり、異議なく承認され、矢作氏が挨拶を行った。続いて第四号議案の令和4・5年度理事の選任について神山会長より提案説明が行われ、新任理事5名を含む22名の理事が異議なく承認され、すべての議案が可決された。

総会終了後、矢作副会長の進行の下、第50回埼玉医学検査学会実行委員南雲涼太氏（埼玉県済生会川口総合病院）より学会からのお知らせがあり、続いて各研究班より令和4・5年度研究班員の

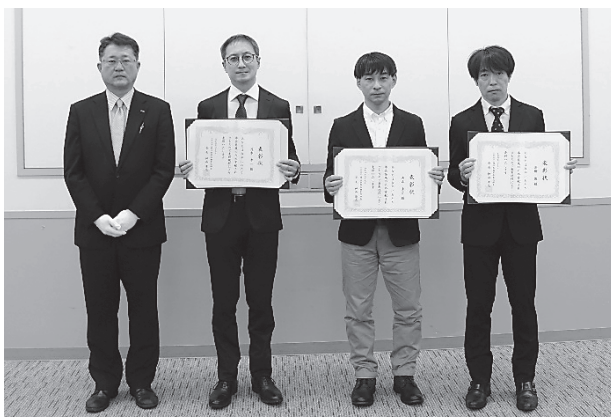


埼臨技功労者表彰 飯田眞佐栄氏(右)

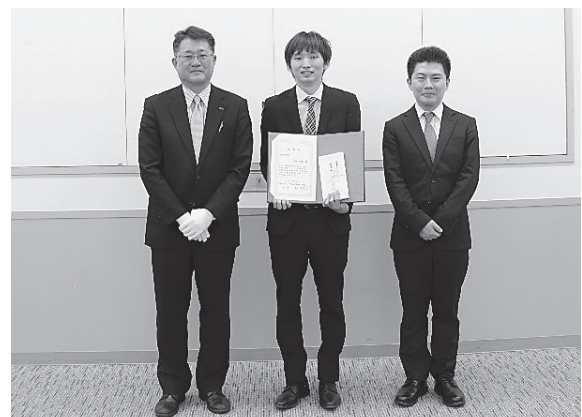
紹介、今回の総会をもって退任される菊池理事、笹野理事、飯野理事、矢作副会長より挨拶が行われた。同時に行われていた新理事による令和4年度第3回理事会にて新会長に神山清志氏が選定され会員の皆様へ挨拶があり、全ての日程が終了となった。

本総会が円滑に開催できたのは、河村議長の円滑な進行と総会役員、出席者の協力及び多くの会員の皆様からの議決権行使書、委任状の提出協力によるものです。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

(文責：松尾千賀子)



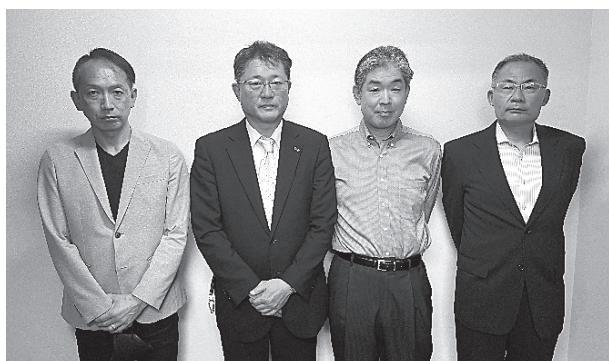
永年会員表彰



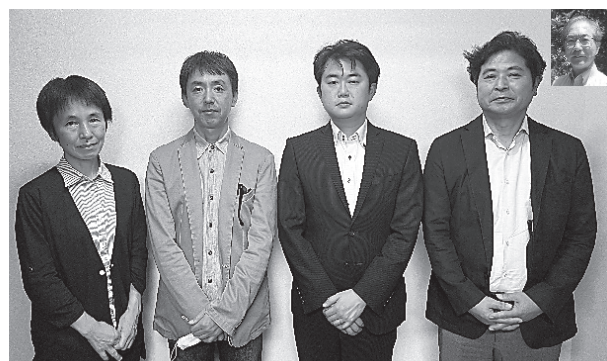
埼臨技会誌優秀論文賞

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 令和4・5年度 役員名簿

役 務 担 当	氏 名	施 設 名
会 長	神山 清志	一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター
副会長	松岡 優	埼玉医科大学病院
副会長	猪浦 一人	埼玉県済生会加須病院
副会長	山口 純也	埼玉県済生会川口総合病院
事務局長 (常務理事)	濱本 隆明	防衛医科大学校病院
事務局次長 (常務理事)	長澤 英一郎	さいたま市立病院
事務局次長 (常務理事)	松寄 朋子	自治医科大学附属さいたま医療センター
総務部長 (常務理事)	阿部 健一郎	深谷赤十字病院
総務部	松尾 千賀子	埼玉医科大学総合医療センター
総務部	三木 隆治	獨協医科大学埼玉医療センター
総務部	網野 育雄	埼玉医科大学国際医療センター
総務部	佐瀬 勝也	東松山医師会病院
事業部長 (常務理事)	塚原 晃	戸田中央総合病院
事業部	神嶋 敏子	埼玉県立小児医療センター
事業部	伊藤 恵子	学校法人明星学園 国際医療専門学校
事業部	伊藤 隆史	西武入間病院
会計部長 (常務理事)	石井 直美	越谷市立病院
会計部	神戸 考裕	関東甲信越ブロック血液センター 埼玉製造所
会計部	小林 麻里子	北埼玉医師会立メディカルセンター
学術部長 (常務理事)	長岡 勇吾	さいたま赤十字病院
学術部	久保田 亮	埼玉県立大学
学術部	長谷川 隆	一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター
精度保証部長 (常務理事)	神戸 考裕	関東甲信越ブロック血液センター 埼玉製造所
監 事	遠藤 敏彦	株式会社 ビー・エム・エル
監 事	細谷 博光	細谷会計事務所



神山会長 (左から2人目) ・副会長



事務局 ・ 監事



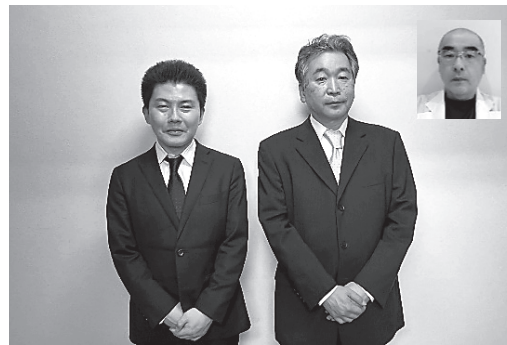
総務部



会計部



事業部



学術部

◆ 新任理事の自己紹介

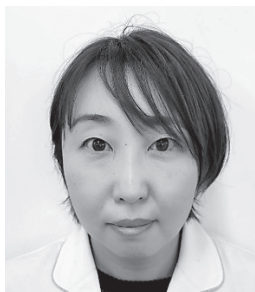


西武入間病院
伊藤 隆史

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を務めさせていただきます伊藤隆史と申します。

当会主催の研修会や学会等で習得した知識や経験、勤務しております中小規模病院での体験などを少しでも会員の皆様にお伝えできるよう微力ながら努めてまいります。

よろしくお願いいたします。



北埼玉医師会立メディカルセンター
小林 麻里子

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました、北埼玉医師会立メディカルセンターの小林麻里子と申します。研究班の活動を通じてお世話になった理事の方々とご一緒にお仕事できるということで嬉しく思っています。会長をはじめ諸先輩方の指示を賜りながら、会員皆様のお役に立てるように努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



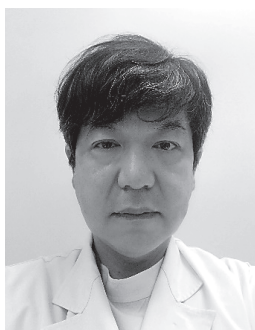
東松山医師会病院
佐瀬 勝也

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました佐瀬勝也と申します。会員の皆様のお役にたてますよう、微力ではありますが努めて参りたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



埼玉医科大学国際医療センター
網野 育雄

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました網野育雄と申します。研究班活動を通して技師会に参加し人との繋がりを大切にしてきました。新任理事として、諸先輩方にご指導いただき、今まで培った人とのつながりを大切にし、当会のさらなる発展および皆様のお役に立てるよう努めて参りたいと思います。まだまだ勉強の50代ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



獨協医科大学埼玉医療センター
三木 隆治

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました三木隆治と申します。技師会には、学会、研究班などの活動を通じてお世話になりました。理事として、お世話になった分を少しでもお返しできるように努めてまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

期 間：令和4年12月4日(日) 開催

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：「伝統と革新 ～知・技・験の伝承～」
50回だヨ！ 全員集合～



第50回 埼玉県医学検査学会
会計部長 神戸 考裕

第50回埼玉県医学検査学会の会計部長を務めさせていただきます、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の神戸考裕と申します。

皆様ご存じのとおり、埼玉県医学検査学会は埼玉県臨床検査技師会の公益目的事業の1つになっており、収支決算報告を見てもわかるように事業の中で大きな割合を占めています。会員の皆様からの貴重な会費を会務執行のため運用している責務を十分に認識して、会員、地域の方々のために活動をしています。また、経費を効率的に活用し運用することを目的として、新たにイベント管理・グループ運営サービスのアプリを使用することで、参加者の管理、参加費の事前決済を予定しております。皆様の記憶に残る学会を目指して、準備して参りますので、ご参加をよろしくお願いいたします。

研究班研修会報告

テーマ 免疫測定法とピットフォール

主催 血清検査研究班

実施日時：令和4年5月13日 18時30分～19時45分

会 場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講 演 1：免疫測定法の原理と特徴

講 師：岡倉 勇太（戸田中央臨床検査研究所）

講 演 2：免疫検査におけるピットフォール

講 師：渡邊 剛（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員162名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵

研修内容の概要・感想など

今回は、免疫測定法の原理と特徴についてと免疫検査におけるピットフォールについて測定法の違いによる結果の解釈から自施設で遭遇した症例までの臨床現場に応じた講義内容であった。

免疫測定法では、抗原抗体反応を原理として広く用いられている。測定対象は、低分子から高分子化合物まで幅広く用いられ、臨床現場においては自動化が進んでいる。また、測定法は多様であり、その反応方法も様々である。特徴としては、生化学検査などの比色定量分析と比較すると、高感度で生体内のホルモンや腫瘍マーカー、サイトカインなどの微量成分の測定に優れている。その一方で、抗原や抗体を用いた測定法が故に、交差反応や非特異反応などは避けられない。イムノアッセイは大きく3つの要素により、分類できる。まず、反応様式により区別される。競合法は、検体中の目的対象物質とあらかじめ標識しておいた抗原または抗体を競い合わせ、シグナルの減少により対象物質の濃度を算出する方法である。比較的小さな分子においても測定可能であるが、ある程度の抗原量がないとシグナルの変化を検出しづらい。非競合法（サンドイッチ法）は、検体中の目的対象物質を2つの抗体で挟み混む（サンドイッチ）ことで、結合したもののシグナルの増強により濃度を算出する方法である。反応系において抗体過剰な状況で反応させているので、高感度化や測定範囲を広げることが容易である。抗体と抗体で目的対象物質を挟むことから、ある程度の分子サイズ（1,000以上）は必要で複数のエピトープが必須となる。次に、洗浄操作の有無により区別される。その洗浄操作のことをB/F分離と呼び、標識した抗原または抗体と結合したもの（B:Binding）と結合しなかったもの（F:Free）を選別し、結合したもののみを測定に用いる。最後に、抗原抗体反応した複合体を可視化するために各種の標識物質を用いて検出を行っている。その発光強度により感度に相違があり、化学発光、蛍光、吸光（呈色）の順に高いと言われている。今回は自動分析装置で導入施設の多い、化学発光を検出に用いた方法についての説明が中心であった。化学発光を用いた測定法には、2つのタイプが存在する。1つは、標識してある化学発光物質に光源を照射することで励起状態にし、物質が基底状態に戻ろうとする際に発光する現象を捉え、発光強度を検出する方法である。代表は、CLIAやECLIAである。もう1つは、標識してある酵素を反応させ、そのエネルギーにより発光物質を化学発光させる方法である。それが、CLEIAである。

免疫測定法は多様であるため、測定値や判定が異なることがあり、自施設の装置や試薬の原理を理解することが大切となる。

免疫血清検査は従来の手法から多検体、多項目を一度に処理できる自動分析装置が主流となっている。自動分析装置の導入により、特異性や検出感度の向上、検体の微量化、検査時間の短縮など、臨床において大きな恩恵を受けている。しかし、免疫検査ではピットフォールが付きものである。今回は測定までのプロセス毎に分けて、分析する方法が紹介された。測定前の検体処理の段階、測定中、生理的要因の3つに大きく分類し、解析を行う。検体前処理の段

階では、NSE測定の際の溶血による偽高値、唾液の混入により腫瘍マーカー（CA19-9、CEA、SCC）の偽高値、ボルテックスミキサーにより物理的要因によるCYFRA測定値の変化、マイクロフィブリンの析出によるHBs抗原、HIVスクリーニング検査などの感染症マーカーの偽高値などが挙げられた。測定中においては、検体中の抗原あるいは抗体の一方が過剰に濃すぎると、抗原抗体反応の最適比から外れ、かえって反応物が抑制され、偽陰性となる（プロゾーン現象）。また測定器や測定原理の変更に伴う測定値の乖離例としてCA19-9が紹介された。その他にも測定条件の変更や疾患の影響なども測定値の変動因子として挙げられる。生理的要因としては検体の保存状況や薬剤の影響、検体由来のHAMAなどの異好抗体の影響などが考えられる。

免疫検査においてピットフォールが疑われるのは、前回値との乖離、関連項目や臨床症状との相違がある際などである。プロセス毎に分け1つずつ分析していくことが、原因究明には重要である。今回の内容は、自施設においても是非参考にしたい内容で、実践していきたい。

（文責：山本晃司）

テーマ 脳波検査の基礎（記録と波形の見方）

主催 生理検査研究班

実施日時：令和4年5月19日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：工藤 淳子（北里大学メディカルセンター）

参加人数：会員98名

出席した研究班班員：南雲涼太 瀧沢義教 工藤淳子 野村和弘 家城正和 横尾愛
小宮山英幸 武藤由里子

研修内容の概要・感想など

今回は脳波の基礎ということで脳の機能・構造から話が始まり、電極の付け方、導出法のメリット・デメリット、異常所見がある場合に気をつけること等色々な講演内容であった。

特に今回の講義では、検査を行う上で大切な患者の背景、検査目的を知ることは基本であるが、検査中も細かい配慮が必要であること。今日の患者の状態は？波形は？賦活試験を行ってもよいか？等についても実際の波形を元に講義が行われた。脳波だけに目を凝らすのではなく、心電図の波形にも目をこらし、患者の安全を守ること。そして正確な検査結果を出すことは当然だが、脳波をあまり見ない先生達にも伝わる記載方法に気を配れるようにしてほしいことも分かり易く説明があった。

今回の勉強会には約100名近い参加があり、脳波への関心が高いことが分かった。脳波は全病院が実施している検査ではなく、また同じ所見が毎回出て来る訳ではないので判断に難しい検査でもある。今回は脳波の基礎の講義であったが、次回は応用編も聞きたいと思った。

（文責：武藤由里子）

テーマ これから本気で輸血を勉強する方も、効果的な新人教育に悩んでいる方にも まずはここから！ 知って得する輸血のABC

主催 輸血検査研究班

実施日時：令和4年5月20日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講演 1：埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告（令和3年度）

講師：渡邊 一儀（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 2：知って得する輸血のABC

講師：宮澤 翔子（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員118名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 岩崎篤史 小原佑太 比嘉絢子
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

今年度初の輸血研修会であり、毎年恒例の埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と新人向けの輸血検査の基礎についての2演題を企画した。

まず、渡邊氏より令和3年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業について報告が行われた。参加施設数はほぼ変動がないものの、検査方法において試験管法が毎年微減ではあるがカラム法やマイクロプレート法へシフトしている現状がみられていた。技術的なスキル維持およびタスクシフトの点から、今後も試験管法から自動分析機へ移行していく施設が増えることが想定されるのではないだろうか。

令和3年度は、RhD血液型検査の評価基準の見直しを行ったことが大きな変更点であった。赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂3版）には、抗D試薬と同時にRhコントロールを用いて検査を実施することが表記されている。これに従って、Rhコントロール試薬との反応が未実施の施設はC評価としたことにより、昨年度に比べC評価が増加した。ガイドラインに従い、検査を行うことは重要である。今回の結果をもって、Rhコントロール試薬の導入検討のきっかけになればと思う。

2演題目の宮澤氏の講演は、輸血検査の基礎についての内容であった。輸血検査も自動化されているが、試験管法での検査を避けられない分野であり、そのためには常に正しい知識と手技を身に付けておく必要がある。今回の講演は、血液型検査と不規則抗体検査の基本的な事項から、異常反応が起きた場合の対応についての内容であった。

初心者の方にもわかりやすく、また指導にあたる技師にとっては、指導するポイントが明確になった内容であったと思う。少しでも、今後の業務に活かせることを期待する。

（文責：久保居由紀子）

テーマ 凝固検査の理解を深めよう！

主催 血液検査研究班

実施日時：令和4年5月26日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：須長 宏行

（積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター学術企画グループ）

参加人数：会員215名 賛助会員7名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 星聖子 島田崇史 吉沢悟
石田沙妃

研修内容の概要・感想など

凝固検査では、検体の処理や検査結果の妥当性の確認等、検査プロセスにおいては外部精度管理により標準化されてきているが、検査前の検体採取や検体搬送等については標準化が進んでいないのが現状である。検体採取（採血）は、採血者により技術的誤差が生じやすい。また採血管別の受け入れ不可検体の調査では、凝固採血管が最も受け入れ不可数が多く、その理由の大半は量の過不足という結果が示された。量の過不足は直ちに注意・改善できる点であり、採血は検査前の重要なプロセスであるという認識を持って、今後は採血業務にあたっていただきたい。

検体の取り扱いに関して、凝固採血管の許容採血量は±10%であること、採血後は速やかに5回泡立たないように転倒混和し、室温（18～25℃）にて保存すること等、基礎的な知識として再確認した。遠心分離にはいくつかの条件があり、各施設で設定の検討が必要である。検体の分注時は、バフィーコートより最低5mm離れた上清を取ることが重要で、リン脂質を含んだ血小板を混入させない目的がある。

凝固検査の異常値を判断するうえで、病態や治療を反映した値なのか、分析装置や試薬に由

来するものなのか、採血や採血管に由来するものなのか、これらを見極めることが必要であり、臨床症状と合わない場合は再採血を依頼するなどの対応を検討する。また、遠心後のパフィーコート性状を確認して境界面に凹凸があれば検体凝固を疑うことで、異常値の判断の補助となり得ると感じた。

質疑応答も盛んに行われ、外注提出時は血漿を -70°C に保存することが望ましい点や、溶血の原因がどこにあるのかを把握することが必要となる点、乳び検体は超遠心後に浮いた脂質を除いて測定する点など、日常業務に役立つ講演内容であった。(文責：澁川絵美)

テーマ **トラブル事例から学ぼう。**

主催 一般検査研究班

実施日時：令和4年5月27日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：基礎教科-20点

講演 1：当院で発生したトラブル事例と対策①

講師：小針 奈穂美 (埼玉医科大学病院)

講演 2：当院で発生したトラブル事例と対策②

講師：柿沼 智史 (川口市立医療センター)

参加人数：会員78名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 中川禎己
松本実華 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、「トラブル事例から学ぼう。当院で発生したトラブル事例と対策」というテーマで、①の事例では小針氏、②の事例では柿沼氏を講師にWeb開催した。

事例①では、採尿時でのトラブル事例から運用に関わる事例まで、尿検査一連のプロセスにおける事例が主な内容であった。質の高い尿検査の実施には、臨床検査技師としての知識は勿論だが、患者自身が採尿する尿検査などは、正しい採尿方法や適切な尿での検査の必要性を理解してもらうことが重要である。また、ラベルの見落としなどの運用に関する事例では、再発しないための手順を決め、手順書に沿った手順を徹底することの重要性を再認識することができた。

事例②では、2例の尿検査に関するトラブル事例と、3例の髄液検査に関する事例であった。尿検査では、試験紙法における偽反応と、尿沈渣中の糞便由来成分が定量検査に影響した事例を、実際の検査データに基づいて説明があった。試験紙法の偽反応の中でも、尿の色調が試験紙の呈色に直接影響を及ぼす偽反応が最も多い。しかし、分析装置での判定には限界があるため、目視法にて確認することが重要である。また、検査結果が、思いもよらない影響を受けている場合もあるため、検体の状態は常に同一な状態ではないことを念頭に置かなければならない。髄液検査の事例では、多くの施設が夜間当直帯で実施している検査項目であるため、トラブル事例の多くが夜間帯に起きることが多い。そのため、手順の周知徹底と、定期的なトレーニングの実施が必要である。

今回のトラブル事例は、多くの施設で遭遇した経験がある内容であったと思う。今後の日常業務での再発防止に繋がる、大変参考となる内容であった。(文責：室谷明子)



お知らせ

埼臨技事務所の夏季休暇について

令和4年8月11日(木)～17日(水)

上記期間は事務員が不在となりますので、
ご承知おきください。

令和4年度
 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
 第3回 理事会議事録

日 時：令和4年6月9日(木) 19時45分より
 場 所：大宮ソニックシティ
 さいたま市大宮区桜木町1-7-5
 議 題：代表理事選定の件
 出 席：(理事)阿部 網野 石井 伊藤(恵)
 伊藤(隆) 猪浦 神嶋 神山
 神戸 久保田 小林 佐瀬
 塚原 長澤 長谷川 濱本
 松尾 松岡 松寄 三木 山口
 (監事)遠藤
 欠 席：(理事)長岡
 (監事)細谷



令和4年度
 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
 第4回 理事会議事録

日 時：令和4年6月16日(木) 19時00分より
 場 所：埼臨技事務所
 さいたま市浦和区領家7-14-7
 議 題：I. 行動報告 II. 報告事項
 III. 承認事項 IV. 議題
 出 席：現地にて出席
 (理事)神山 松岡 猪浦 山口 濱本
 長澤 松寄 阿部 松尾 網野
 三木 塚原 伊藤(恵) 神嶋
 伊藤(隆) 石井 神戸 小林
 久保田 長谷川
 (監事)遠藤
 Zoomにて出席
 (理事)長岡 佐瀬
 (監事)細谷

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和4年5月12日～令和4年6月15日)
 5月12日(木)令和4年度第2回理事会：

理事21名(総理事数22名)及び監事1名(総監事数2名)出席のもとに、理事会を開催し、下記議案につき可決確定の上、午後8時00分散会した。

I. 議題

1 代表理事選定の件

理事 濱本隆明は選ばれて議長となり、今般、代表理事 神山清志が理事の任期満了により代表理事の資格を喪失し、退任することになるので、改めて当法人の代表理事を選定したい旨を述べ、慎重に協議した結果、出席理事の全員一致をもって、次のとおり選定した。なお、被選定者は、席上その就任を承諾した。

代表理事 神山 清志

神山、矢作、松岡、濱本、長澤、山口、神嶋、菊池、松尾、伊藤(恵)、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、長岡、久保田、長谷川、遠藤、細谷

5月12日(木)埼玉県医学検査学会50回記念式典実行委員会：

松岡、濱本、伊藤(恵)、塚原、松寄、山口

5月12日(木)日臨技医学検査学会会議：神山

5月15日(日)日臨技認定化学免疫審議会：神山

5月15日(日)タスクシフト指定講習会：

猪浦、山口、伊藤(恵)、塚原、松寄、長谷川、石井、神戸

5月19日(木)第50回学会実行委員会：

神嶋、飯野

5月20(金)～22日(日)日本医学検査学会：神山

5月24日(火)越谷市精度管理打合せ：神山

5月31日(火)令和4年度第1回女性技師企画研修委員会：

菊池、山口、石井、伊藤(恵)

6月2日(木)日臨技人事委員会：神山

6月9日(木)令和4年度定時会員総会：

神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、長澤、山口、神嶋、菊池、松尾、伊藤(恵)、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、久保田、長谷川、飯野、遠藤

6月9日(木)令和4年度第3回理事会：

神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、山口、神嶋、松尾、伊藤(恵)、塚

原、松寄、石井、神戸、阿部、久保田、長谷川、網野、伊藤(隆)、小林、佐瀬、三木、遠藤

6月9日(木)第1回HP委員会：

山口、濱本、塚原

6月11日(土)理事研究班合同会議(会計)：

神山、松岡、松寄、石井、長岡、神戸、塚原、久保田、長谷川

6月13日(月)理事研究班合同会議

(HP・生涯教育)：

山口、長岡、濱本、松寄、塚原、久保田、長谷川

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 5月12日(木)埼玉県医学検査学会第50回記念式典実行委員会を開催した。式典は埼玉県医学検査学会当日に行い開催形式は飲食を伴わないものとする。(別紙資料1)
- 2) 5月15日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉006)が開催された。次回は6月19日(日)に埼玉県007を予定している。9月18日予定のタスクシフト指定講習会が講師の都合により9月11日に変更することで調整中。
- 3) 5月25日(水)第29回埼玉糖尿病教育セミナーに対する後援依頼を承認した。
- 4) 5月26日(木)土地売買契約に関わる技師会事務所駐車場の測量が行われた。
- 5) 6月7日(火)令和4年度埼玉県公衆衛生事業功労者表彰について埼玉県に推薦状を送付した。
- 6) 会員総会会場を大宮ソニックシティよりレイボックホール(市民会館おおみや)に変更予定。

2 総務部

- 1) 5月31日(火)令和4年度第1回女性技師企画研修委員会を開催した。(別紙資料2)
- 2) 6月15日(水)埼臨技だより第517号 発行予定。
- 3) 女性技師企画研修委員会の名称について会員より指摘があった。今後名称の変更を検討する。

3 事業部

- 1) 9月22日(木)令和4年度第1回検査室管理運営研修会開催予定。
講演名：「学ぼうハラスメントの基礎と対策」
あなたの職場は大丈夫？
どこからがハラスメント？
講師：池上 貴子
(社会保険労務士法人やさか事務所)
- 2) 令和4年度全国「検査と健康展」企画書予

算書作成について日臨技事務局へ送付予定。
(別紙資料3)

4 学術部

- 1) 5月12日(木)生涯教育研修プログラム6月・7月分の行事登録(日臨技システム)が完了した。
- 2) 生涯教育研修プログラム8・9月分を埼臨技だより6月号に同封予定。
- 3) 6月11日(土)と13日(月)に理事研究班合同会議(会計部門、HP・生涯教育部門)を開催した。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和4年度正会員費79名395,000円、入会金47名47,000円、再入会金1名分1,000円、合計443,000円の入金があった。
- 2) 日本臨床衛生検査技師会よりタスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会の実務員料として42,120円の入金があった。
- 3) 株式会社サンメディアより複製等の利用許諾実績金額165円(1件)の入金があった。
- 4) 株式会社メテオより2021年度文献許諾使用料5,600円の入金があった。
- 5) 日本臨床衛生検査技師会へ2022年度精度管理調査用試料代819,348円を支払った。
- 6) 石井印刷へ、埼臨技だより第516号印刷代95,480円を支払った。

7 精度管理委員会

特になし

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

- 1) 6月25日(土)令和4年度定時会員総会開催予定。

11 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 5月19日(木)第8回学会実行委員会を開催した。(別紙資料4)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)

令和4年6月1日現在
会員数 3,394名[令和3年度会員数3,329名]
(新入会員 151名)
賛助会員 56社[令和3年度 76社]
承認された。

- 2) 令和4年度理事会開催日程について
(別紙資料5)

上記の件について、濱本隆明事務局長か

- ら発言があり、審議の結果、承認された。
- 3) 埼臨技事務所夏季休暇について
上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、8月11日から17日まで夏季休暇とすることで承認された。
- 4) 事務員の夏季賞与について
上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。
- 5) 第50回記念式典実行委員会運営委員の追加について (別紙資料6)
上記の件について、松岡優副会長より、発言があり、審議の結果、承認された。
- 6) 各種委員会委員の選任について (別紙資料9)
上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、執行部が所管する常設委員会の委員について承認された。なお、本審議は、議題1可決後に審議、承認された。
- 7) 研修会に使用する領収書書式について
上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。
- 2 総務部
特になし
- 3 事業部
- 1) JAMTIS学術権限付与について
上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、新入会員向け研修会(7月29日)、第1回検査室管理運営委員会(9月22日)開催に際し、学術権限の付与することで承認された。
- 4 学術部
- 1) 令和4年度からの生理検査研究班CD-ROM

サーベイ運用変更について

(別紙資料7)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第50回埼玉県医学検査学会

1) 技師養成校学生の参加について

上記の件について、神嶋敏子理事より発言があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局

1) 令和4・5年度役員(副会長・常務理事)について (別紙資料8)

上記の件について、神山清志会長より発言があり、審議の結果、可決された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

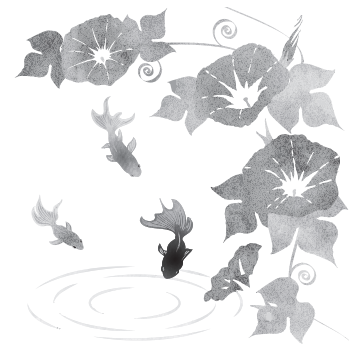
長い梅雨も明け、そろそろ本格的な・・・“夏が来る”

皆様は夏の計画、お済でしょうか？

海？山？それとも、まったく。

久しぶりの解放感を味わえる夏です。

感染対策を万全にし、夏をエンジョイしましょう



(山口 記)

